

富田地区防災講演会

1,講演「紀伊半島大水害から学ぶこと」

2,防災カルテを読む

令和4年10月1日開催

紀伊半島豪雨の経験 高校教諭が振り返る

四日市で防災講演会

災害時の津波や浸水に備えようと、四日市市の富田地区連合自主防災隊と同地区連合自治会は一日、富田地区市民センターで防災講演会を開き、住民ら五十五人が参加した。

北星高校（同市茂福）で防災教育を担当する坂田広峰教諭が講師を務めた。坂田さんは二〇一一年の紀伊半島豪雨の際、被害を受けた熊野市の木本高校で勤務しており、校舎が床上浸水

した当時の状況や、復旧活動中のけがの危険性などを語った。

北星高校での防災教育に



講演会で紀伊半島豪雨の経験を振り返る坂田さん（右）四日市市富田の富田地区市民センターで

ついても説明した。同校は、約一・三キロ離れた高台にある久留倍官衙遺跡公園を二次避難所に設定しており、九月に生徒と避難経路を確認。坂田さんは「被害を想定することが大切。地域ぐるみの避難を目指したい」と話した。

その後、住民らは同地区減災アドバイザーの北河勝彦さんの説明を受けながら、地区の災害リスクを記載した台帳「防災カルテ」で、五カ所の指定避難所と八カ所の津波避難ビルを確かめた。

（篠崎美香）